

日本臨床発達心理士会千葉支部 2022年度第2回資格更新研修会のお知らせ

日時 2022年10月30日(日) 13時00分～16時00分

会場 Zoomによる配信(入室は12時30分より可能)

千葉支部会員向け研修会(他支部からの参加はできません)

事前参加申込が必要、定員60名、**参加費無料**、研修ポイント1ポイント

テーマ 「コロナ禍が子どもの認知やコミュニケーションの発達に与える影響について」

日程と講師

(前半) テーマに関連した話題提供と情報交換

講師 田原 佳子 先生(東上総教育事務所)、大槻 美智子 先生(東大戸小学校)、
佐々木 郁子 先生(君津特別支援学校)、関口 薫 先生(白井市こども発達センター)、
松川 節理子 先生(富里市健康推進課)

(後半) 講演

講師 川島 隆太 先生(東北大学加齢医学研究所)

要旨

本研修会は、Zoomによる配信にて実施します。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大で、子どもたちの学校(園)での生活が、集団の行事やさまざまな活動が制限され、マスクをしての会話が増えるなど、子どもたちのコミュニケーションのあり方が大きく変わってきています。本研修会で、まず前半、幼児や児童等に関わるさまざまな立場の会員から子どもたちの現状について話題提供、情報交換を行います。後半は、脳科学者である東北大学の川島隆太先生に、科学的分析に基づき、「マスクが当たり前になり、表情が乏しくなる」「感情が読み取りにくい」状況が発達期の子どもたちにもたらす影響について、講義していただきます。本研修会をとおして、改めてコロナ禍が子どもたちの認知やコミュニケーションの発達に与える影響について考え、子どもたちに関わる私たちにできることは何か、考える機会とします。

○参加方法

◆千葉支部会員向け研修会で事前参加申込が必要です。

申込受付期間 **2022年10月1日(土)より** 10月20日(木)まで。先着順に受け付け、定員になりしだい締め切りといたします。

氏名、登録番号を明記の上、jacdpchiba@yahoo.co.jp宛てにメールで送信してください。

参加の可否、研修会資料の配布方法、Zoomへの参加方法についてメールで送信します。申込時のメールアドレスに返信しますので、必ず返信メールが受け取れるアドレスから参加申込をしてください。**参加費は無料**です。

◆情報提供のお願い

本研修会の前半は、本テーマについて話題提供と情報交換を行います。参加される皆さまから、テーマに関連した身近な現状や感じていることについての情報提供をお願いいたします。参加申込みのメールに、氏名、登録番号に続けて 200 文字以内で(1~2 行でも結構です)書き添えていただくとありがたいです。寄せられた情報は研修会資料の一部として参加者の皆さまに配布します(氏名は記載しません)。

なお、情報提供は必ずということではありません。申込み受付は、情報提供の有無にかかわらず先着順で行います。

- ◆2022 年度までおよび以前の会費が未納の方は参加できません。不確かな場合は必ず申込前に日本臨床発達心理士会マイページからログインして、会費納入状況を確認してください。
- ◆当日の研修会終了後 1 時間以内に、講義の中にあった複数の「合い言葉」をメールで送信していただき、研修会参加が完了したことになります。
- ◆本研修会に参加するためには、Zoom ミーティングに参加するための設備(パソコン、Web カメラ、マイク等)と環境(ソフト、インターネット接続)が整っている必要があります。

○確認事項と遵守事項

申込にあたっては必ず下記についてご確認ください。申し込まれた方については下記の確認事項と遵守事項に同意されたものとさせていただきます。

◆確認事項

当日の通信状況や参加者の操作ミス等により講義を視聴できなかった場合について、個人に講義内容の再配信は行いません。

◆遵守事項

1. Web 研修会を受講できるのは、受講申込をした本人に限られます。本人の代わりに他人が受講してはいけません。
2. 講義や資料のリンク先の URL を他人に教えたり、SNS やブログなどで公開したりしてはいけません。
3. 参加者は講義を撮影、録画、録音、公開をしてはいけません。
4. 講義内容や配付資料を SNS やブログなどに公開してはいけません。
5. 配付資料の電子ファイルを他人に送信したり、コピーを他人に配付したりしてはいけません。
6. その他、倫理綱領に抵触する行為をしてはいけません

(以上の遵守事項は、「士会支部主催のオンライン研修会においてポイントを付与する基準」

2020.8.8 日本臨床発達心理士会執行部会、より)

千葉支部 2022 年度第 2 回資格更新研修会資格更新研修会 報告

2022 年 10 月 30 日(日)13 時～16 時 Zoom 配信によるオンライン研修会 参加者 54 名
「コロナ禍が子どもの認知やコミュニケーションの発達に与える影響について」

上記のテーマに基づいて、前半にさまざまな立場の方々から話題提供していただき、後半に東北大学 加齢医学研究所 川島隆太先生をお招きし、ご講演いただきました。

1 話題提供について

①私、田原佳子（東上総教育事務所）からは、コロナ禍における聴覚に障害がある子ども達の状況についてお伝えしました。口形や表情を見る事が大事ですが、マスクで見えない中で、話を理解しコミュニケーションしているため、豊かな言葉や心を育てることが難しい状況にあることを知っていただきたいと思います。

②大槻美智子先生（香取市立東大戸小学校）からは、コロナ禍での小学校の子ども達の現在の状況についてお話があり、10月現在、学校生活のさまざまな規制が解除の方向で動いており、行事や歌唱指導等、できる形を模索しているとのことでした。子ども達の表情が乏しくなったり友達の顔が覚えにくくなったりしているそうです。

③佐々木郁子先生（千葉県立君津特別支援学校）からは、コロナ禍の下での特別支援学校の子どもの状況についてお話があり、さまざまな経験をする機会が減ったり体を動かす場所の制約が大きく運動不足が心配になったりしているとのことでした。訪問教育についてのコロナ禍の下での良い面や問題点についてもお話いただきました。

④関口薫先生（白井市子ども発達センター）からは、療育施設でのコロナ禍でのエピソードを織り交ぜながら、感じておられることについてお話がありました。活動に制限が出たり子どもが使った道具の消毒に職員が追われたりしており、構音指導を受けに来る子が急増している中で、改善し終了する子が減っているとのことでした。

⑤松川節理子先生（富里市健康推進課）からは、就学前の幼児に関するコロナ禍でマスク着用による影響について関係者の聞き取りやご自身の感じていることを元に、発音や発話への影響の大きさ、大人や言葉でのやりとりへの意識の低下、人を認識するための情報低下等、コロナ禍しか知らない子ども達の成長を危惧されていました。

2 川島隆太先生の講演

まず、脳の働きと発達についての基礎知識について脳の図を元にわかりやすく説明していただきました。思考の脳は3歳までと思春期以降に大きく発達し、3歳ぐらいまでの家庭での経験と、中学生以降の生き方で考える能力が育まれるということです。親子の会話が子どもの脳を刺激し、ほめる声かけで脳の活性化が強まり、意欲が高まるということをお話

の状態から説明していただきました。

印象深かったのは、インターネット習慣が多い小児は3年後の広範な領域で大脳皮質の体積があまり増加しないという結果を、3年間200名以上の被験者にMRIを用いて計測して出されていることです。ICT社会の危険性について根拠に基づいて述べておられます。

そして、最も重要だと感じたことは読み聞かせはこころの脳を育み、言葉の数・聞く力が増加し、子どもの問題行動や親ストレスが減少するということです。読み聞かせによって、親子の愛着形成が促進され、子どもの安全基地が形成されたとのこと。さらに、読み聞かせにより読書習慣がつくと言語を扱う大脳の左脳がより発達するというデータに基づいたお話も心に残りました。

今後、ICTのよりよい活用方法を考えていくことが重要であるとともに、スマホやLINEだけではなく、子どもと直にふれあうというアナログの方法も大事にしていかなければならないと考えさせられました。

(田原佳子)